

優良種子への認識と生産技術向上を目的とした、第22回秋田県優良種子生産共励会が3月27日に開催され、管内から2名の生産者が受賞されました。

この共励会は秋田県産米改良協会が毎年開催しています。管内から秋田県産米改良協会長賞の優秀賞及び東北農政局長賞に大高正人さん(荷八田)、秋田県産米改良協会長賞の奨励賞に大高晃さん(荷八田)の2名が選ばれました。

受賞者代表の大高正人さんは、「気候変動に対応して、今後優良種子を作り続ける。」と抱負を語ってくれました。

高品質米生産に必要な不可欠な優良種子を提供
優良種子生産者に、管内から2名が選ばれる



▲受賞者の大高正人さん(左)と、大高晃さん(右)



▶謝辞を述べる大高正人さん

廃棄用のプラスチックを、管内3地区で回収
JAが代行処理を行い、農家の手間を軽減



農家から廃棄用のプラスチック等を回収し、JAが代行処理申請を行う『農業用廃プラスチック収集』が3月29日、各営農センターで実施されました。

この取り組みは環境保全等を目的に年数回行われ、当日は青年部員や職員が農家からの処理委託に対応しました。各センターには、ビニール・ポリ、育苗箱等が数多く運び込まれ、30名の農家から合計3tを処理委託しました。利用者は「定期的に実施してもらって、本当に助かっています。」と喜んでいました。次回の実施は、田植え作業が終了する6月頃を予定しています。



▲廃棄用育苗箱を運ぶ福司支部長

JAねぎ部会がねぎ育苗ハウス巡回を実施
念願の販売高10億円達成に向け、生産者の育苗管理を確認



JAねぎ部会(山谷初男部会長は、各生産者の育苗状況と今後の管理を指導する『ねぎ育苗ハウス巡回』を、4月1日から4日間にわたって管内8箇所を実施しました。

このうち初日の常盤地区巡回には、生産者15名が参加。今後の管理に向けて、振興普及課・技術センター・JAの担当者が、小菌核腐敗病やタマネギバエ・タネバエなどの病害虫防除について説明しました。

今年は気温が高いものの、気温の変化も大きい見込みとなっており、担当者は換気等による適正温度管理を呼びかけていました。



▶ねぎ苗の出来ばえを確認する